

特集 1 : 臨床医・産業医のための基礎知識

【巻頭言】

塩 田 洋 (徳島大学医学部感覚情報医学講座視覚病態学分野)

古 本 真二郎 (徳島県医師会)

我々は今革命のまっただ中に生きている。それは情報化革命と呼ばれている。ありとあらゆる分野にコンピューターが導入され、まさに日進月歩で発展している。一昔前までは夢物語であったようなことが現実に行われ、また自分達がそれをせざるをえなくなってきた。例えば遠隔地診療がその例である。コンピューター画面に患者がいて、ボタン一つで臨床検査データが出てき、またボタン一つで動く検査画像が現れる。実際の患者は遠く離れた所にいるのであるが、あたかも目の前にその患者がいるかのごとくに診察ができるようになってきている。新には「手術ロボット」まで現れており、私達が執刀するのではなく、シュミレーションされたロボットが手術をするのである。医師はロボットの執刀を3次元モニターで見ながら、必要に応じて修正することにはなるが、湾岸戦争やアフガニスタンでのハイテクを駆逐した戦いを思い浮かべていただければ、医療でも同じレベルでの革命が進んでいるということである。

少しおおげさになったが、この特集ではコンピューターに関係した病気や動向を取り上げてもらうことにした。また産業医とつながりの深い労働災害と重金属中毒についても勉強することにした。コンピューター作業をしていると、眼が疲れてポツとして見難くなったり、肩こりや頭痛を来すことがある。この詳しいお話を、「VDTと眼精疲労」と題して矢野雅彦先生にお願いしました。次の田近智之先生には「眼と労

働災害」についてお話いただきました。仕事に眼を負傷し、かつては失明につながっていたような怪我でも、硝子体手術を行って視力1.2まで回復できた話が印象的でした。鈴木泰夫先生には、カドミウムや水銀を初めとする「重金属中毒」について講演していただき、発ガン性のあるものは30年も記録保存することになっていると聞かされ、改めて重金属の恐ろしさを知らされました。森口博基先生には「電子カルテとシステムの確立」と題し、徳島大学医学部附属病院での現状と未来についてご講演していただきました。平成15年1月からはいよいよ電子カルテが導入されます。便利な反面、いったん電気が止まったらどうなるのか？またプライバシー保護のためのセキュリティーは大丈夫なのか？コンピューターに疎い私たちは、取り残されないためにもこの方面の勉強の必要性を痛感させられました。最後に徳島県の医療政策課長の一宮省一氏が「医療情報化の現状と今後の課題」について講演され、国のIT戦略に基づき「徳島県ITプラン」を推進しているということでした。そしてこれからは大学、医師会、行政が連携して問題解決に当たる必要性を強調されました。

これら講演の詳細は、後に続く各演者の論文をご参照下さい。現代に生きている以上、この情報化革命から逃れることは出来ません。あまりストレスを感じないように、遅れないように、皆さんITをマスターしましょう。